



新刊案内



『図書館危機』 有川 浩／著 メディアワークス T／アヒ
『香君：上』 西から来た少女 上橋 菜穂子／著 文藝春秋 T／ウナ
『海を見た日』 M. G. ヘネシー／作 鈴木出版 T／ヘネ
『よろず占い処陰陽屋百ものがたり』 天野 頌子／著 ポプラ社 TB／アシ
『アクセル・ワールド：26裂天の征服者』 川原 礫／著 KADOKAWA TB／カレ
『アメリカの中学生が学んでいる14歳からの700ラミン』 ワークマンパブリッシング／著 ダイヤモンド社T007／アメ
『ぶっちゃん、誰が国を動かしているのか教えてください』 17歳からの民主主義とメディアの授業 西田 亮介／著 日本実業出版社 T312／ニリ
『土木技術者になるには』 三上 美絵／著 ペリカン社 T366／ミミ
『通信制高校があるじゃん！：2022～2023年版』 学びリンク T376／ツウ
『アメリカの中学生が学んでいる14歳からの科学』 ワークマンパブリッシング／著 ダイヤモンド社 T400／アメ
『部活で差がつく！勝つ剣道上達のコツ60』 所 正孝／監修 メイツユニバーサルコンテンツ T789／フカ
『文章がフツーにうまくなるっておきのことば術』 関根 健一／著 大修館書店 T／816／セケ

ティーンズのココロ通信

山口市立中央図書館 222号
令和4年 6月 1日 発行 〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL: 083-901-1040 FAX: 083-901-1144

Eメール: info@lib-yama.jp



梅雨の季節。

じめじめとうっとおいしい季節です。

でも、大地の実りにとっては大切な時期です。
私たちも、春から浮きたった心を静かに癒しましょう。

今月のテーマは【color】です。



●『君色パレット 多様性をみつめるショートストーリー』

戸森 しるこ/ひこ 田中/吉田 桃子/魚住 直子/著 岩崎書店 Tキミ

今回のココロ通信のテーマは「color」。色にはその色のイメージや受ける印象があり、人にとってもそれは同じ。最近よく聞く「多様性」とは。人とあわせなければ仲間外れですか？SNSの返事が遅かったらダメですか？それって息苦しくないですか？

人と違ってもいいじゃない、悪いことをしていないのに悪口を言われて気にしない。自分を生きているのは自分だから！ (T. O)

●『メイドイン十四歳』

石川 宏千花/著 講談社 T/イヒ

自他共に認めるナチュラルボーン優等生の藍堂くん。転校生のお世話係を任されるが、なんと彼は「先天性可視化不全症候群」という全身無色透明に見えてしまう難病を抱えていた。全身包帯姿の浅窪くんと仲良くすることで、藍堂くんもクラスで無視されるようになり……。初めて本物の「差別」にふれてショックを受ける藍堂くんはどう浅窪くんと向き合うのでしょうか？あなたがどんな大人になりたいか、未来に繋がる今を考える作品です。 (S. K)

●『色どろぼうをさがして』

エヴァ・ジョゼフコヴィッチ/作 大作 道子/訳 ポプラ社 TF/シエ

イジーは12歳の女の子。ママは事故で昏睡状態になり、入院している。それを自分のせいだと思い込むイジーは、事故以来パパや、親友ともぎくしゃくしてうまくいかなかった。

そんなある日、イジーの夢に「色どろぼう」があらわれる。イジーの部屋から1色ずつ消していく「色どろぼう」。それをきっかけに生まれる新たな友達との関係が、イジーを変えていく。

「色どろぼう」の正体に隠された謎とは一。 (M. U)

●『きれいな色ことば』

お一なり由子/著 大和書房 T914/オユ

自分の見ている色と他人の見ている色は同じじゃないかもしれない。色はきっと目だけで見ているのではないと思う。人は自分の色を見て生きて行く。自分の思うとおりに。

この本は作者が色から受けた印象やその色にまつわる思い出をつづったもの。同じ色と言われるものも、そこから感じる思いは人それぞれと教えてくれる。 (T. O)

●『檸檬先生』

珠川 こおり/著 講談社 T/タコ

音や数字が色に見える共感覚の少年は、放課後に忍び込んだ音楽室で檸檬色の中学生と出会う。同じ共感覚者の「檸檬先生」と出会って初めて、少年は絵や音楽を楽しみ、あふれる色彩との付き合い方を知ってゆく。

少年にとっての「普通」の世界は、打上げ花火を見続けるような、新鮮な驚きを与えてくれます。強烈な個性ゆえに他者から排除された少年と「檸檬先生」の共有した孤独、色と戯れる喜びを透明感のある文章で描いた作品です。 (S. K)

●『線は、僕を描く』

砥上 裕将/著 講談社 B/トヒ

高校時代に、事故で両親を失った主人公の霜介。以来、日々の生活から色は失せ、無気力な学生生活を送っていた。そんなある日、霜介はアルバイトで知り合った水墨画の大家「篠田湖山」にひよんなことから気に入られ、内弟子にされてしまう。だがそれに猛反発し、来年の「湖山賞」をかけた勝負を霜介に挑む湖山の孫・千瑛。初めての水墨画に戸惑いつつも、次第に魅了され、線を描くことで霜介の世界は少しずつ色を取り戻していく。

そして一年後、千瑛との勝負の末に霜介が得たものとは一。 (M. U)